

Eureka XI

六年制通信 No.39 令和6年3月8日(金)号

どこがおかしい？

いつも堅苦しい話ですからね。ちょっと落語の話をしましょう。「壺算(つぼざん)」の要約を紹介しますから、どこがおかしいのか考えてみて下さい。この場合の「おかしい」は面白いという意味ではなく論理的におかしいという意味です。

基礎知識として、昔々まだ貨幣の価値も今とは全く違う頃、大阪では水屋という商売があって、川の上流から船で水を売りに来ていました。どの家庭にも水壺があって、その壺には二種類ありました。大きさによってね。一荷入り(いっかいり)の壺とその倍の水が入る二荷入り(にかいり)の壺です。「壺算」は瀬戸物屋へ水壺を買いに来た二人連れと店の番頭さんのやり取りの話です。まず瀬戸物屋で一荷入りの壺を三円で買います。そしてそれを担いで店を出て少ししてから店に戻って「すまん、間違えた。二荷入りの壺が欲しかったんや。いくらになるかな」と言うと番頭は「一荷入りの倍ですから六円です」と答えます。すると今度は「あ、そうか。ではそれをもらうけど、頼みがあるんや。二荷入りを買うと、この一荷入りの壺はもう必要ないんやが、いくらかでも引き取ってもらえんか」と頼みます。つまり買ったばかりの一荷入りの壺を買い取ってくれないかということです。番頭は「すぐそこまで担いで行きはただけで傷も何もないわけやから元値の三円で引き取らせていただきます」と。さてここからですよ。

「そうか、おおきに。じゃあこの一荷入りの壺が三円やな。それでさっき現金で三円渡したよな。全部で六円払ったことになるから二荷入りの壺を持って行ってもええんやな」と二人連れ。番頭も「ああ、なるほど三足す三で六と、そうでんな」と納得してしまうのですが、しばらくすると「ちょっと待って下さい。どうも勘定があわん気が…。お金が三円しかおまへんねん」と二人を追いかけます。「おいおい、変なことを言うなよ。金で三円あるんやろ?」「はい、それはもう間違いなく手元にありますから」「お前、一荷入りの壺を三円で買い取ったのを忘れてないか?あれをまた誰かに売ったら三円になるわけやろ?」「ああ、そうか、壺がおましたな。忘れてましたわ」と、こんなやり取りが何度かあって番頭が「もうわけがわからん、この壺、持っていきなはれ」、これを聞いた二人連れが「へへ、それがこっちの思う壺や」と、これが落語のサゲです。

さて、二人連れの悪だくみの真相がわかりましたかな。番頭さんはどこをどう間違えて計算がわからなくなったのでしょうか。論理的に説明してごらん。

次は単純な笑い話です。九年ほど前にユリイカで紹介したものですが、面白いので再掲します。これも明らかに計算がおかしいのですが、私はどこがどうおかしいのかすぐには指摘できませんでした。皆さん、トライしてごらん。早坂隆『世界の日本人ジ

ヨーク集』(中公新書ラクレ)に入っている話です。

東京の企業に勤めるトムが上司のところへ行って、「すいませんが、1日お休みをいただきたいのですが」と言った。すると、日本人の上司は表情ひとつ変えずに口を開いて話し始めた。「そうか、1日休みが欲しいって言うのか。では、いくつかのことを確認してみようか。1年間は365日、52週ある。週に2日はすでに休みだ。それを引くと残り261日 $(365-52\times 2)$ が労働日だね。1日16時間は仕事をしていないわけだからこの分174日 $(261\times 16/24)$ を引く。そうするとたった87日 $(261-174)$ しか残らない。君は毎日30分間コーヒープレイクを取っているから、計算すると1年間に23日分 $(365\times 0.5/8)$ 休んでいることになる。そうすると残りは64日 $(87-23)$ だ。それから毎日昼休みが1時間あるから、また46日分 $(365\times 1/8)$ は引くことになる。これで残りは18日分 $(64-46)$ だ。そして君は平均すると年に大体2日は病欠をするよね。それで残り16日間 $(18-2)$ になる。毎年祝日で7日休みがあるから、残りは9日 $(16-7)$ ということになる。最後にうちの会社は社員に8日間の有給休暇を与えているから、残りはたったの1日 $(9-8)$ だ。その1日をまさか君、休みたいなんて言うんじゃないだろうね」

日本人はよく働くというのをネタにしているのですが、さて、どこが変？

今週のおすすめ

・今回は映画です。『きみの瞳が問いかけている』

監督さんが言うには、このタイトルはシェイクスピアをヒントにしたとのこと。調べてみたら「あの目が話しかけている」というセリフが『ロミオとジュリエット』の第2幕第2場(Act 2, Scene 2)、ここは本当は「おお、ロミオ、ロミオ、どうしてあなたはロミオなの」という圧倒的有名なセリフがあるのですが、その少し前にありました。たぶんこれですね。また、盲目の少女の手術代を工面するために奮闘する男のモチーフはチャップリンの「街の灯」が最初でしょう。私の大好きな作品ですので君たちにもお勧めします。バージニア・チェリルが可憐な盲目の花売り娘に扮しています。浮浪者のチャップリンを大富豪と勘違いするタクシーのシーンなど、秀逸なアイデアがたくさん詰まっていますよ。ラストシーンがチャップリンの真骨頂です。見えるようになって花屋を営む娘はタクシーが止まるたびに、あの恩人ではないかと期待してしまいます。もとより娘はチャップリンの顔を知りません。しかも恩人は大富豪だと思込んでいます。あるとき路上で子どもたちにバカにされている浮浪者を見かけ、哀れに思い一輪の花を与えます。逃げようとする彼の手を半ば強引にとって花を渡すのですが、その触れた手の感触で自分を救ってくれた「あの人」だと確信します。

だから私は今回の作品も、転んだ彼を助ける時に手に触れて…、と思っていたのですが…。ちなみに横浜流星という役者さん、あのキックボクシングは本物ですね。物語としてはいろいろ「？」が浮かんできますが、一つのラブストーリーではあります。

BGMは Queen の *Love Of My Life* でした…。